

## 1月12日(火) 定例記者会見 発表内容

まず、最初に「保育士人材確保推進事業」について発表させていただきます。

本市では、地域の実情に沿った子育て支援施策を推進するため、公立保育所・幼稚園の再編等を進めるなど、就学前教育・保育環境の変革に取り組んでおり、これを支える保育士等の人材確保は大きな課題となっています。

こうしたことから、課題解決のための取り組みとして、令和3年度より、保育教諭を含む保育士を確保する事業である「保育士人材確保推進事業」を令和3年第1回定例会への予算提案を行うため、準備を進めております。

同事業の対象は、市内の私立認可保育所及び認定こども園に就職、または勤務している保育士(保育教諭を含む)で、新規就労や復帰支援を促進するための就労支援金及び転入支援金の支給、勤続年数に応じた手当・奨励金の支給に加え、保育士職の

魅力を伝えるパンフレットの作成を実施したいと考えております。

具体的な内容については、新規就労・復職支援の取り組みとして、市内の民間保育施設に保育士や保育教諭として新たに採用され、初年度において1年以上勤務いただいた方に対し、常勤職員であれば10万円を、パートタイム職員であれば5万円を支給するものです。

なお、半年以上勤務された場合は、半額を支給します。

対象者には、この支給を複数年行う予定です。

加えて、新規就労する正規職員が、新たに市内に転入される場合については、さらに10万円の支援金を支給することとします。

次に、頑張る保育士を応援する取り組みとして、同じ保育施設で勤務する正規保育士に対し、勤務年数に応じて手当を支給します。

勤務年数が、2年以上10年未満の保育士に対し、月額3千円を、10年以上勤務いただいた保育士に対し、月額5千円を支給します。

また、正規・非正規を問わず、同じ保育施設で勤務する保育士に対し5年ごとの節目に、勤続奨励金を支給します。

さらに、保育士人材確保のための取り組みとして、保育士養成校等に、本市の保育士に対する支援事業等について説明するためのパンフレットを作成し、配布します。

また、本事業を推進するにあたり、私自身が今年18日から22日にかけて、県内の保育士養成校を訪問し、意見交換会を実施することとしており、保育士を目指しておられる方々の現状やニーズの把握を行うこととしております。

こうした取り組みを複数年に渡り実施することにより、各保育施設における保育の量の確保や質の向上を図り、子育て支援の更なる充実を図ってまいります。

次に、旧鳴門市北灘西小学校利活用事業について発表させていただきます。

旧北灘西小学校については、平成27年4月の休校以降、地域

の皆様とともに、校舎等の利活用の方策を検討してまいりました。

令和元年11月には、公募型プロポーザル方式により利活用事業者を募集し、同校を活用した、いちご観光農園事業をご提案いただいた戸田建設株式会社四国支店を利活用事業者に決定いたしました。

この度、同社によるハウス建設、駐車場等の整備工事が完了し、旧北灘西小学校は地域に賑わいをもたらす「TODA Berry Farm(トダ・ベリー・ファーム)」として生まれ変わります。

TODA Berry Farmでは、鳴門市内でイチゴ農園を運営する株式会社フルーツガーデン山形との連携により、同社のオリジナルブランドである「うずしおベリー」のいちご狩りを楽しむことができるほか、今後、ミニカフェや郷土資料館の開設も予定されております。

1月23日には、オープニングセレモニーが開催されることとなっており、地域の皆様については、無料開放いただけると伺っております。

ります。

今回の取り組みは、民間事業者による休・閉校施設を活用した初めての事例となりますことから、今後におきましても、地域の新たな賑わいの創出を目指し、地域住民の皆様や利活用事業者とともに事業のさらなる推進に努めてまいります。

次に、道の駅「なると(仮称)」の施設名称決定について、発表させていただきます。

現在、本市では、人口拡大や地域活性化を図ることを目的に、大津町備前島に道の駅の整備を進めております。

令和4年春のオープン・開駅を目指しており、令和3年度中に国土交通省に対しまして、道の駅の登録申請を行う計画としております。

本市が目指す道の駅は、地域の住民の皆様方のもとより、観光客をはじめとする域外からの集客を目指しております。施設イメージの定着やブランディングの推進を図る観点から、こ

のたび、全国公募により施設名称の公募を行いました。

令和2年10月16日から11月20日にかけて、市公式ウェブサイトや広報なると等により公募を行った結果、県内外より381件の応募をいただきました。そのうちの約65%が県外の方からの応募となっております。

続いて、名称の選定方法についてですが、

- ① 分かりやすいか？
- ② 価値を正しく伝えているか？
- ③ 覚えやすいか？

の3つの視点、および本市職員の若い世代を中心に構成しております、道の駅整備推進に係る庁内ワーキンググループのメンバーや本事業に係る関係者の意見などを踏まえ検討を進めてきました。

その結果、「くるくる なると」を施設の正式名称として選定いたしましたので、公表させていただきます。

選定理由といたしましては、

①“くるくる”という表現は、本市が誇る「鳴門の渦潮」を想起させ、また「千客万来」にも繋がる言葉の響きがあります。

また、本施設は、多くの人が集まる訴求力の高い施設運営と、道の駅を核とした経済効果や賑わい等の波及効果が地域に広がることを目指しており、施設の全体コンセプト「人が出会い交流し地域に広がる 笑顔と元気うずまく 道の駅なると」と名称に込められた想い・イメージが一致いたします。

②地名を含む名称で鳴門市の施設であることが明確になりますので、新たな本市のランドマークとして、本市の名称・魅力を全国にPRすることに繋がると考えております。

③「渦潮」という唯一無二のコンテンツを想起させるキーワードと「鳴門」という一定のブランド力のある名称を合わせることで、施設の認知度向上が期待できます。

④全てひらがな、「くるくる」と「なると」の間にスペースを入れることで分かりやすい表記となっております。

また、清音を用いて、言葉の響きが良いため、「可愛らしさ」「柔

らかさ」「やさしさ」といった印象を与えます。

⑤「鳴門」や「渦潮」を連想させる名称の応募数が最も多かったことから、応募者の共通した想いを反映させることができるものと考えられます。

以上、5つの理由により選定をさせていただきました。

なお、施設名称をご提案いただきました方は、静岡県在住の40代の男性の方で、5千円相当の鳴門の特産品セットをお贈りする予定としております。

また、今後については、令和3年度中に実施予定である、第55回目の道の駅の登録受付に関して申請準備を進めます。現地においては、既に造成工事が始まっており、来年度からは建築工事にも着手し、令和4年春の開駅に向けて、準備を進めてまいります。

次に、徳島ヴォルティスJ1昇格にかかる取り組みについて発表させていただきます。



鳴門市では、本市をホームタウンとするプロスポーツチーム・徳島ヴォルティスの活動を支援するとともに、クラブと連携することにより、地域活性化及びにぎわいの創出を図っております。

J1昇格を果たした今シーズンは、J1昇格カウントダウン事業として、残り8試合から昇格を果たすまで、市のさまざまな広報媒体を活用し、応援してまいりました。

また、J1昇格が決定した後は、市役所本庁舎にJ1昇格とJ2初優勝を記念した看板を設置するとともに、ヴォルティスを応援する市民団体と連携しながら、のぼりを市内各所に設置するなど、市民の皆さんと一丸となり、祝福ムードを盛り上げてきたところです。

そして、このたび徳島ヴォルティスが7年ぶりのJ1昇格を果たしたことにより、J1リーグ戦を戦う2021シーズンは多くのサポーターが本市を訪れることが予想されます。

そこで、ホームスタジアムのあるまちとして、クラブ・徳島県と連携しながら2月下旬のJ1リーグ戦の開幕に向けて、サポーターの

受け入れ体制の整備をはじめ、各種施策を推進することとしております。

まず、ヴォルティスロードの整備についてですが、JR鳴門駅など主要な交通拠点からスタジアムまでのヴォルティスロードを整備することにより、応援機運の醸成やスタジアムまでの道案内を行うとともに、まち歩きを促進することで渋滞対策、地域への経済効果につなげてまいります。

具体的には、市消防庁舎前からスタジアムまでの歩道のカラー舗装や路面シールの設置を行うとともに、JR鳴門駅からスタジアムまでの街路樹への看板設置、ロード上6箇所にはデザインマンホールを設置いたします。

また、本市を訪れるアウェイサポーターの皆さんに気持ちよくサッカー観戦をして頂くために、受入環境の整備と本市の魅力発信に努めてまいります。

スタジアムまでの道案内と周辺のお店等を紹介したヴォルティスロードマップや、本市を訪れた方にサッカー観戦だけでなく、観

光も楽しんで頂くために、市内の観光施設・土産物店等での特典が受けられるプロスポーツ観戦パスを作成し、鳴門駅前観光案内所や鳴門市観光情報センター、ホームゲーム会場のアウェイ入場口で配布したいと考えております。

さらに、「ようこそ！Jリーグのあるまち 鳴門」とデザインされたのぼりを製作し、ホームゲーム開催日には市内交通拠点をはじめ、市内のさまざまな場所において掲げることにより、サポーターの皆さんをお迎えしたいと考えております。

そして、サポーターが利用する高速鳴門バス停留所においては、徳島ヴォルティスを愛するファンの笑顔の写真を集め、本市を訪れたサポーターを歓迎する看板を設置いたします。

本日から2週間、徳島ヴォルティスを愛する方々の笑顔の写真を募集しますので、ぜひご応募頂き、みなさんで作り上げた看板でアウェイサポーターの方を歓迎できたらと考えております。

今後、こうした各種施策を積極的に推進し、2月下旬のリーグ戦の開幕日に向けて、多くのサポーターをお迎えする準備を整え

るとともに、J1の舞台は本市を訪れる多くの方に鳴門の魅力を知って頂く素晴らしい機会になりますので、この好機を逃すことなく、地域活性化やにぎわいの創出につなげてまいります。

最後に、鳴門市文化会館休館前記念イベント「みんなでラストカーニバル」出演団体募集について発表させていただきます。

鳴門市文化会館は、昭和 57 年の開館から 38 年が経過し、耐震性能の不足や設備等の老朽化のため、今年の 3 月 31 日をもって休館となります。

長年、たくさんの市民の皆様にご利用いただきました文化会館を休館まで楽しんでいただくため、市内で活動する文化団体の皆様にご参加いただく文化祭「みんなでラストカーニバル」や「鳴門市文化会館 38 年の軌跡展」の開催、文化会館前のイルミネーションの設置などさまざまなイベントを予定しています。

今回は、3 月 28 日に開催する「みんなでラストカーニバル」にご出演いただける文化団体を募集いたします。募集団体は 12 組

で応募の締め切りは2月14日までとなっております。

文化会館の名誉館長であります、吉本興業の石田靖さんと私が司会・進行をさせていただき、文化祭を一緒に盛り上げたいと考えています。

ぜひ、ご応募いただきたいと思います。

5つの発表は、以上でございます。